

RICEBALL SEMINAR

様々な分野の先輩若手研究者が、自身が行っている研究内容の紹介、研究者の道に進んだきっかけや国際学会での発表体験、ラボでの日常などを発表します。発表内容を踏まえたフリーなディスカッションを通して、互いの理解を深め、この機会にみなさんの「研究」や「学び」に生かすとともに、大学院の魅力を再発見してみたいはいかがでしょうか？

6/14
FRIDAY
12:20

情報系大学院生の楽しい研究生活

研究者の道に進んだきっかけ

研究室配属され、右も左も分からない状態で始めた研究。始まってみると意外に楽しくもっと研究を続けてみたいと思った大学三年生の冬。気づいたら院生になってしまっていました。

研究の内容

今、私は研究を二つやっています。

一つ目は、野間教授が開発した触覚センサ(センサに加わる力を正確に計測できるセンサ)を用いて、署名中のグリップに加わる力を計測。計測された力から、署名認証を行い本人であることを確認できる。実験では、97%の精度で識別行えています！

二つ目は、ウェアラブルデバイスの普及しきらない要因の一つとして充電があります。

充電は面倒臭い！！だからこそ、充電時間を楽しむことで充電に対する嫌悪感を減少させる。

岡田一志 [情報理工学研究科 M1]

2019

6月

6/21
FRIDAY
12:20

短時間で子どもの足を速くするには？

研究者の道に進んだきっかけ

学部1回生の夏、「陸上競技のトラックはなぜ左回りなのか？」という素朴な疑問が浮かび、研究に触れるきっかけとなりました。その後、子どもと関わることが好きであり、自ら発見した研究データによって一人でも多くの子どもの将来を豊かにしたいと思い、院進学を決めました。

研究の内容

「走る」という能力はあらゆるスポーツに関連した能力であり、将来スポーツ選手を目指すジュニアアスリートにとって重要です。また、一般の子どもにとっても親しみのある体力であり、向上することで喜びを感じやすい能力でもあります。今回は、小学生の足を速くするためにはどんな運動を行ったらよいのかについて紹介するとともに、現在行っている運動介入について紹介致します。

鳥取伸彬 [スポーツ健康科学研究科 D3]

6/28
FRIDAY
12:20

サルコペニアの予防・改善効果を反映する新規血液バイオマーカー

研究者の道に進んだきっかけ

学部生時代から人々の健康維持・増進に貢献したいと強く思い、研究活動を続けてきました。

その中で、自身の研究活動が国内外で深刻な問題となっている高齢化に対して貢献できるのではないかと考え、大学院でさらに深く研究することを決意しました。

研究の内容

近年、日本を含む先進国では高齢化が急速に進行しており、加齢に伴う筋量・筋機能の低下(サルコペニア)が注目されています。サルコペニアは転倒や骨折リスク、寝たきりに関与するため、早期から予防または改善することが健康寿命の延伸に重要になります。今回は、サルコペニアの予防・改善効果を簡易的かつ客観的に反映する新規血液バイオマーカーについてご紹介します。

堀居直希 [スポーツ健康科学研究科 D2]



Facebookでチェック
ライスボールセミナーBKC



7月
RICEBALL
SEMINAR

7/05
FRIDAY
12:20

「いろいろな食品を優しくつかむソフトなロボットハンドの開発」

鐘江 峻 [理工学研究科 M1]

7/12
FRIDAY
12:20

「地震や津波などの災害から橋梁を守るための設計法の提案」

楠田 昂平 [理工学研究科 M2]



お問い合わせ

立命館大学 BKCリサーチオフィス
BKCライスボールセミナー事務局

TEL
077-561-3488

共催

立命館大学総合科学技術研究機構、立命館大学BKC社系研究機構、立命館グローバル・イノベーション研究機構

協力 経済学研究科、理工学研究科、情報理工学研究科、薬学研究科、生命科学研究所、スポーツ健康科学研究科

